

平成19年度 事務事業評価表		担当	市民福祉部 養護老人ホーム		内線等	8004	
事務事業名	入所者の給食・栄養事業			事業コード	1. 一般事務事業（ソフト事業）		
根拠法令等	老人福祉法			A 法令			

総合計画での位置付け

基本目標	3. 健康で安心して暮らせるまちづくり	施策名	高齢者福祉
------	---------------------	-----	-------

事務事業の内容

対象（受益者）	養護老人ホームの
手 段	入所者に食事のサービスを提供する事によって
想定する成果	入所者に喜ばれる食事の場を提供する。

事業の概要

項 目	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度計画
1日1人当たり平均単価	934円	856円	871円
市が示している1人当たり単価	926円	892円	871円
1日平均入所者数	26人	23人	31人

成果指標

成果指標名	単価達成度	
成果指標の説明	1日1人当たりの平均単価/市が示している単価×100	

事業の進捗状況 （ 一般 会計 ） （単位：千円）

		平成18年度決算（実績）				平成19年度決算（実績）				平成20年度予算（計画）			
成果指標		100.9%				96.0%				100.0%			
成果指標													
事業費	事業費	22,594				24,411				22,265			
	人件費	2,344				2,350				2,405			
	(人数)	正規		非常勤	1.0	正規		非常勤	1.0	正規		非常勤	1.0
	合計	24,938				26,761				24,670			
財源内訳	国	0				0				0			
	県	0				0				0			
	市債	0				0				0			
	その他	11,014				11,490				11,814			
	一般財源	13,924				15,271				12,856			

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明（問題点）
	19評価	16評価	19評価	16評価	
達成度	2	2	2	2	日常生活の中で食事に寄せる関心が非常に高いため各自の健康保持、運動不足による肥満等の軽減の検討、又食べる事の楽しみを十分尊重し栄養バランスの献立作りに励んできた。
経済効率性	3	3	2	2	食材の選択、効率化により賄費の消滅を図りつつ豊かな食生活づくりに励んだ。
事務効率性	2	2	2	2	自分で選ぶことのできる楽しみをつくるため複数献立と食事の選択性の取り組みを実施したところ自身の喫食糧、献立を選ぶ事の楽しさ等が現れてきたと感じる。又、献立名をあげたり食事に関するコミュニケーションが従来よりも増してきたと実感している。
必要性	3	3	3	3	食べることは、利用者の大きな楽しみであり施設生活の大きな位置を占めている。老年期の栄養管理を踏まえつつ、食事サービスを通して利用者の生活を支えていくためにも必要である。
小計	10	10	9	9	
施策への貢献度	1	-	1	-	行事等実施する際に食事に関する生の声をきおやつ等を一緒に作り楽しみをわかち合ってきた。
合計	11	10	10	9	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	献立の内容も多様化を求められ、高齢による病弱化も増加中、通常の食事が不可能な治療食も必要となって高齢による運動不足等で生じる肥満の解消の検討（病床の原因）老年期の栄養管理又充実した老後の健康食生活のあり方を大きくとらえ、個々のコミュニケーションを大切にしてきた。
------	---	---	---	---	---

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

前回（H16評価時）「今後改善すべき点」として記載した内容及びその実施状況

前回（H16評価時に）記載した「今後改善すべき点」
調理室内の高温多湿対策を検討し室内の天井と換気扇を設置し、室内の環境整備を図りたい。
上記改善点の実施状況
平成17年度に天井に換気扇を設置し、又調理室内の水配管（天井設置）の整備を図り作業面での効率化、環境の整備をしてきた。

今後さらに改善すべき点

調理室内の床面（コンクリートの整備） 調理室内側面の整備

平成21年度予算に反映する項目

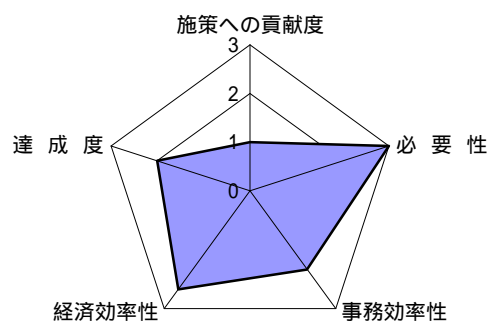
--

今後の方向性

現状維持

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

内部管理事務事業、義務的的事业は必要性を、また施策名がその他のものは施策への貢献度を評価していません。



課内評価と部長評価の平均点